

株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒530-0005

大阪市北区中之島4-2-28 甲南アセット中之島ビル

TEL 06-6105-1904



1 第273号

日経平均株価

2万9176円70銭

▲446円82銭(前日比)

TOPIX

1984.16

▲28.61(前日比)

2021
3/29
月曜日



2月期は食品スーパーなど小売売りが多くを占める

2月期決算企業に「める小売りでは、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた菓需を占める。スーパーでは自家用で調理する食材、ドラッグストアでは感

染対策製品の売上げが急増した。これらの企業は大幅な増収増益が見込まれるが、次期は経

経済正常化へ消費行動変化

経済が正常化するなかで、どこまで前期の好調を維持するかに注目が集まりそうだ。

新年度に突入するなかで、2月期企業から決算発表がスタートする。小売りセクターが多くを占める2月期企業について外食は新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響を受けているが、食品スーパーなどは菓需需要の恩恵を多大に受けた。国内では2度目の緊急事態宣言が解除され新年度では、経済活動正常化へ向けて人々の消費行動が変化していくことになる。それを踏まえて各企業の業績予想もアフターコロナを想定した内容になりそうだ。

2月期決算小売り注目とは？

外出自粛も菓需も必要の恩恵

増収増益が見込めそうだが、

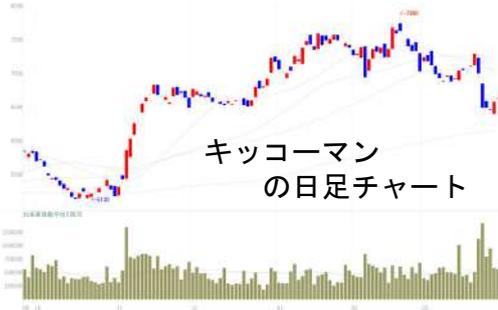
30日発表の西松屋チェーン(7545)の21年2月期はコロナ禍で郊外店需要が高まり、連結営業利益で5・6倍の大幅増益を見込む。次期については小学校高学年向け

衣料や雑貨などの商品を拡充、ECモールや店頭受け取りサービスの展開が期待され、増益基調を維持すと見られている。

31日発表のニトリホールディングス(9843)、4月2日の平和堂(8276)も小売りでは注目。小売り以外では4月5日のダイセキ(9793)やその子会社のダイセキ環境ソリューション(9793)も注目される。

日経平均日足チャート





225値嵩大幅続落

ETF買入れ変更で売り続く

225指数は前週比で約1.5%下落し、22500を割り込んだ。日銀がETF買い入れ対象から日経平均連動型を除外

週明け22日、フアーストリゲイリング(9983)の下落率が一時4.8%に迫り、インデックス売買比率の高

前週の動意銘柄

高調整の売りが続いており、需給の下支え効果低下したことできつい下げになった。今回の決定は比較的想定外で、日経平均にリンクするETFの日経平均レバレッジ(1570)も大幅に続落した。

ルネサス火災発生

ルネサスエレクトロニクス(6723)

が急反落。那珂工場N3棟の主力工程で火災が発生、生産を停止しており、業績への影響が警戒された。1カ月以内の生産再開を目指しているが、N3棟は月商170億円と全社売上高の3割近くを占める。供給にも影響が出ると思われる。トヨタ自動車(7203)など自動車株にも売りが波及した。

空運は当面の出尽し感

23日、JAL(9201)、ANAホールディングス(9202)の空運株が急反落、業種別騰落率で値下りトップとなった。首都圏の緊急事態宣言が解除され、国内線予約の増加も伝わった

04)など海運株もバブルチック海運指数が6連騰ながら大幅に反落した。

ハブはミクシィと提携

ハブ(3030)がストップ高。ミクシィ(2121)と資本業務提携すると発表した。ミクシィ傘下の有限責任事業組合を割当先とする第三者割当で156万490

約の増加も伝わったが、当面の出尽くし感から利益確定売りや戻り売りがかさんだ。同様に日本郵船(9101)、商船三井(91

04)など海運株もバブルチック海運指数が6連騰ながら大幅に反落した。

商三井大幅高で新値

商船三井(9104)が大幅高で新値追い。液化CO2船を管理するノルウェーのラルビック・シッピング社に出資、液化CO2海上輸送事業へ参画すると発表した。これが買い手掛かりになった。CUS(CO2を回収し貯留、有効利用する技術)事業拡大を目指す。

0株の新株式を発行、約9億8697万1100円を調達して経営再建を進める。併せて、大株主のロイヤルホールディングス(8179)による95万2700株の売り出しも発表した。

ナガオカ大潤受注

ナガオカ(6239)がストップ高。子会社的那賀設備(大連)有限公司が、スクリーン・インターナルで大口受注を

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は日米金融政策調整の悪影響が尾を引き、中盤まで下値を探る展開でしたが、週末にかけ持ち直ししました。25日は前日までの4日間で日経平均が1800円超の急落となっていたことで突反発に転じ、接種加速に待たれず米国から米国のき継ぎ、4時過ぎに反発しました。たかは週明要がありま方針変更に伴う戻すと考えられています。推奨銘柄ではダイセキ(97)が新値を取り、下

インフレヘッジ関連に買い

インフレヘッジ関連に買い。ヘッジのDOWA(5714)やアサヒHD(5857)などに買いを入れています。花咲翁



原油関連大幅安

24日、国際石油開発帝石(1605)、石油資源開発(1662)の原油関連株が大幅安。NY原油先物WTIが前日比3.80ドル(6.2%)安の1バレル

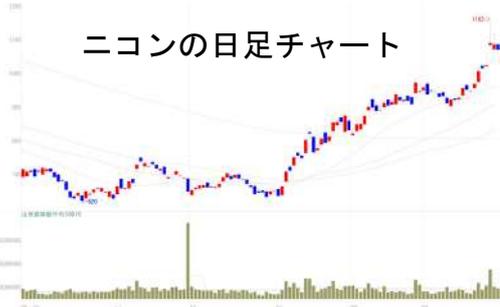
57.76ドルと急落したことを嫌気した。ドイツがロックダウン延長を決めるなど、欧州で新型コロナウイルス感染が再拡大しており、経済停滞による原油需要減退観測から、原油価格に下押し圧力が強まった。

半導体関連逆行高

インテル巨額投資で新工場

24日、東京エレクトロン(8035)やレーザータック(6920)、ニコン(7731)など半導体関連が逆行高。米国株市場では主要株3指数が揃って安く、ナスダック指数やフィラデルフィア半導体株指数も下落したが、米インテルがアリゾナ州に200億ドル(約2兆2000億円)の巨額を投じ半導体新工場を建設すると発表したことで、一段の半

ニコンの日足チャート



公開価格63%上回る

Sharingの初値
Sharing

公開価格の3.1倍
初値 24日にジ
ヤスダック市
場へ新規上場
したシキノハ
イテック(6
シキ614)が上
場2日目の2

5日、公開価格390円の3.1倍となる1221円で初値が生まれた。同社は半導体検査装置の開発・製造、LSIの設計及びIPコアの開発、カメラモジュール及び画像処理システムの開発・製造を行う。

公開価格の2.3倍

ジーネクストの初値
ジーネクスト(4179)が東証マザーズ市場に新規上場、

Innovatio
ns(4178)がこ
の日、東証マザーズ
市場へ新規上場、公
開価格2850円を
63.2%上回る4
650円で初値が生
まれた。同社はシ
ステム開発ならびにク
ラウドインテグレー
ションを手掛ける。

公開価格1230円
の2.3倍となる2
851円で初値が生
まれた。同社は顧客
対応ソフトウェア「D
iscoverie
z」の開発と提供を
行う。

公開価格の2.2倍

ビーカレンダーの初値
ベビーカレンダー
(7363)が東証マ
ザーズ市場に新規上
場、公開価格420
0円の2.2倍とな
る9400円で初値
が生まれた。同社は
妊娠・出産・育児向
けの情報メディア事
業と産婦人科向けの
経営支援ソリューション
などの提供を行
う。

購読会員募集中!

高野恭壽の
株式情報 **これでどや!!**

アンジェスは紹介後に株価6倍化!!



株式市場新聞

www.marketpress.jp

<https://marketpress.jp/subscribe/>

企業観察

DmMiX (7354)

上場後初の株主総会開催



昨年10月5日に東証一部へ直
接上場を果たしたダイレクトマー
ケティングミックス(7354)が
3月25日上場後初となる株主
総会をANAクラウンプラザホテ
ル大阪(大阪
市北区)で開
催した。

議長を務
めた小林祐
樹社長(写
真中央)は
「新しい生活
様式の普及
や非対面営
業チャネル

小林社長は更なる成長に意欲

に対するクライアント企業のニ
ズの変化などもあり、アウトソー
シング需要は堅調に推移した」と
説明し、「今後も株主の期待に応え
ていきたい」と更なる成長に意欲
を見せた。株主からの質問に対し
て社長や役員は適切に答弁したほ
か、受付などスタッフも笑顔で機
敏に対応するなど、上場後、初めて
の株主総会にしては、用意周到な
好印象を受けた。

今21年12月期通期は売上収
益268億円(前期比19・3%
増)、営業利益38億円(同6・0%
増)を見込み、配当は前期の5円か
ら10円への増配を予定している。

今週の動意銘柄

アクセル(6730)が続急伸。21年3月期の業績予想について連結営業利益で1億8000万円から5億1500万円(前期比31・0%増)へ大幅に上方修正、期末一括配当を11円から27円(前期21円)へ引き上げた。メモリモジュール製品は顧客の旺盛な需要により計画を上回った。公開価格33%上回るイー・ロジットの初値(9327)がジャスダック市場に新規上場公開価格1500円を33%上回る1995円で初値をつけた。インターネット通販事業者の物流代行と物流業務コンサルティングを行う。

ハイパーはS高

エプソン販売と業務提

25日、ハイパー(3054)がスエーデンの取引終了後、エプソン(3054)の係会社であるエプソン販売とオフイス向けインクジェットプリンターをはじめとする商品・サービスの業務提携を開始する

と発表した。幅広い顧客網を活用したオフィス向け商品、環境配慮型商材の拡販、ネットビジネスの連携などを図る。

サカイオへMBO不成立
週末26日、サカイオベックス(3405)が急落。MBOが不成立となったことを嫌気した。松木伸太郎社長が設立した企業がTOBを実施したが、応募株式数が買い付け予定数の下限412万7800株に達しな

った。これに伴い無配としていた期末一括配当を50円(前期65円)とした。

公開価格93%上回る
Bマインドの初値
ブロードマインド(7343)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格810円を93%上回る1566円で初値をつけた。個人、法人向け保険代理店、住宅ローン代理、金融商品仲介、宅地建物取引業のソリューションを提供する

ファイナンシャルパートナー事業を行う。

個人投資家の行動変化

先週の東京株式市場は反落となりました。19日の日銀金融政策決定会合でETFの購入策が変更されたことで流れが一変しました。日経平均は18日高値の3万485円から24日には2万8379円まで急落。辛うじて75日線で下げ止まり、週末にかけて下げ幅の40%程度を取り戻しましたが、25日線が右肩下がりから転換したことから早期回復するまで安心できない状況です。

先週から日米ともに個人投資家の行動変化が伺えます。米国では追加経済対策による給付金が期待された株式投資に流れておらず、コールオプションの出来高が減少。日本では個人投資家の物色意欲を示すIPOの初値が市場予想に届かないケースが散見されます。29日は配当権利取り最終売買日ですが、4月新年度入りまでは様子見を決め込むところではないでしょうか。

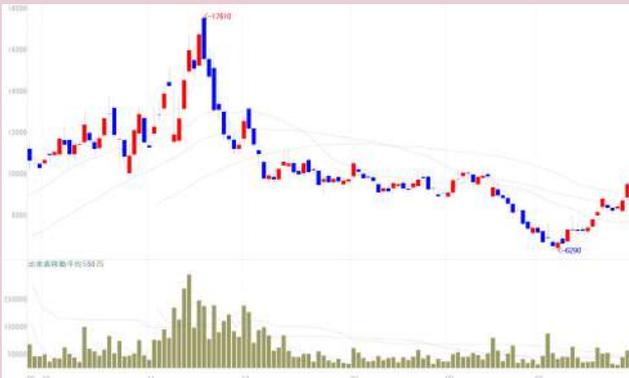


日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

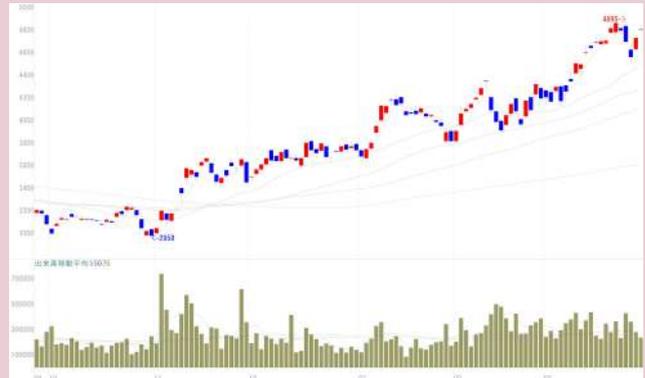
チャート から読む 騰落銘柄

KIYOラーニング(7353)



3月5日に6,290円まで売り叩かれた後に25日と50日線を回復し、2月上旬までのもみ合いゾーンである9,000円台後半まで戻す。1万円けとなればその先は昨年12月高値1万3,310円を意識。

DOWAHD(5714)



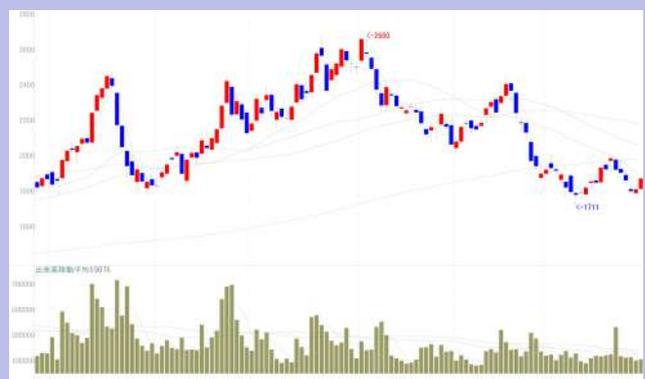
23日に昨年来高値4,895円を付けたあと、地合い悪化に振られ急落も、すかさず切り返し5日線上に浮上する。週足に続いて月足も陽転、大勢上昇トレンド確認し青空相場へ。好業績上振れ観測強い。

日野自動車(7205)



トヨタといすゞの資本業務提携でグループ内でトラック担当する日野自の存在感薄れるとの懸念。24日に1,075円まで買われた後に値を消す展開で翌日は50日割れの931円まで売られ下値模索継続か。

ファイバーGT(9450)



年初に付けた実質最高値2,680円で天井感。戻り試すも急降下してきた25日線に上値を抑えられ、再び下値模索へ。週足陰転で一段安を警戒。押し目買いに信用買い残が積み上がり、需給が重しに。

※チャートは日足

荒川化学工業

新たな事業創出に挑戦

第5次中計で売上高900億円目指す

承と革新、【顧客の軸】お客様と共に歩む)をリンクさせ、26年3月期に連結売上高で900億円(21年3月期予想



第5次中計の説明を行う宇根高司社長

第4次中計期間中は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症等による需要の減少、富士工場爆発・火災事故やドイツのコンビナート停止等による原料コストアップ要因があり、目標計画は未達に終わった。新たにスタートする第5次中期計画ではマテリアリティ(重要課題)と5つのK I Z U N A(【社会の軸】まもる、【人の軸】関わりあう、【自身の軸】主役になる、技術の軸】技術の伝

荒川化学工業(4968)は22年3月期から~26年3月期までの第5次中期5カ年経営実行計画を発表した。

第4次中計期間中は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症等による需要の減少、富士工場爆発・火災事故やドイツのコンビナート停止等による原料コストアップ要因があり、目標計画は未達に終わった。新たにスタートする第5次中期計画ではマテリアリティ(重要課題)と5つのK I Z U N A(【社会の軸】まもる、【人の軸】関わりあう、【自身の軸】主役になる、技術の軸】技術の伝

685億円)、営業利益65億円(同29億円)、純利益45億円(同19億円)を計画。その先には31年3月期に売上高1000億円以上、営業利益100億円以上を目指している。

大阪取引所での説明会の席上、宇根高司社長は「新たな事業領域での事業創出に挑戦」することに意欲を見せる。具体的には機能性コーティング事業で光硬化型樹脂「ビームセット」と熱硬化型樹脂「アラコート」におけるデジタルデバイス関連アイテムの拡充と新規技術の確立と新規分野への参入を進め、ファイン・エレクトロニクス事業では海外の半導体用途や非フラックス洗浄用途での洗浄剤「パインアルファ」の拡大、5Gスマートフォン用高周波FPC市場での「PIAD」の拡大などに意欲を見せている。

企業レター

購読会員募集中!

<https://marketpress.jp/subscribe/>

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄!!



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!!
花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞
www.marketpress.jp

潮流

今後も株価上昇は続く

ヘッジFの売り崩し短期で終わる!!

marKet/bAnk



日経平均
は3月5日
の2万83
08円を底
に18日に
は3万48
5円まで2

177円戻した。しかしその後、クレジットなどヘッジファンドの売り仕掛けで株式市場は急落に見舞われた。ただ、株式市場全体がベア相場に転換した訳でなく、ごく短期で売り崩しは終わるだろう。

売りのきっかけは日銀が19日、ETFの購入をTOPIX型に一本化すると発表したことだ。それを機にヘッジファンドは日経平均寄与度の高いファーストリテイリン(9983)とソフトバンクグループ(9984)を売り叩いて同時に225先物に売りを浴びせ、相場全体を崩した。NYダウ平均が18日に3万3227ドルと史上最高値を付け、その後、利益確定売りが出やすい状態であったこともヘッジファンドにすれば日本の株を売るには好都合であった。

現在の株式市場は、投資よりも投機の割合が異常に多い。これが変動を更に大きくさせている。また、バイデン政権は近く総額3兆ドル(約327兆円)の新たな経済対策を提示する見通しだ。3月11日に成立した1.9兆ドル(約206兆円)規模の経済対策はコロナで悪影響



を受けた家計や企業などの支援が中心であるが、今回はインフラ整備など産業構造の転換を促すのが狙いだ。米国は既に4兆ドル(約435兆円)の財政支出を行っており、さらにその額は大幅に増加する。米

株式市場はグロース(成長)株とバリュー(割安)株の調整を終え、再度史上最高値を更新する動きとなるだろう。

また、菅政権は4月に追加の経済対策を打ち出すと考えられる。秋までに行う衆議院選挙で自民党が勝利するためには、菅政権の支持率を高め、景気回復を国民にアピールするために、株高にすることである。日本政府は昨年の経済対策で30.6兆円規模の財政支出を行って、米国の追随する形でさらに増加させるだろう。政府もMMT理論の必要性を理解し始めたかもしれない。経済危機は流動性危機だ。その流動性危機が財政支出といった政策により消滅している現在の状況下では、マーケットリスクが経済危機に繋がることはない。つまり、今後も株価の上昇は続くのである。

潮流銘柄はミダック(6564)、テックポイント(6697)、デジタル・インフォメーション・テクノロジー(3916)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

流動性危機は財政支出で消滅

増える変動要因には要注意

コロナ終息後に新たな火種

先週の日経平均は前週比末約615円安と3週ぶりに陰線となった。

日銀のETF購入が今後、日経平均型は無くしてTOPIX型だけにするという方針が効いて、24日には2万8379円06銭まで売られ、18日の高値から約2106円下落した。さすがに売られ過ぎの感

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話



ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の週末には戻したが、今後も日経平均はTOPIXに比べ戻りは鈍く、売られる時はTOPIXより売られる展開となる。

先週の売りは年金などの大口投資家のポートフォリオのリバランスの売りという見方ができるが、戻りに対しては米国頼みが否めない。先週はバイデン米大統領が4月末までに新型コロナウイルスのワクチン接種目標倍増を発表し、米国株式が上昇し日本株も下げ止まった。

先週は31日に発表する予定にインフラ投資計画が4兆ドルともいわれており、その期待で底堅い展開は想定できる。しかも、30日は3月期決算企業の権利落ち日となるため、インデックスファンドの再投資分が約1兆円入ってくると思われ堅調な展開となる。リバランスなどの需給悪化要因も無くなり上に上がりやすい環境となると思われるが、高値をとるには材料不足である。

更にウルグアイ問題や台湾の問題も含め中国と米国の関係悪化がここに来て再度目立ってきており、新型コロナウイルス終息後の新たな火種になりかねない。北朝鮮もここに来てミサイル実験を再開し始めており、それぞれの国がそれぞれの思惑でコロナ後を見据えて動き始めており、その分株式市場にとつて変動要因が増えつつある。注意が必要である。

日経225先物の日足チャート



中国と米国の関係悪化がここに来て再度目立ってきた

NYダウの日足チャート



今週は2万8500円から2万9500円の間で上下に動きやすい展開を想定する。(ハチロク)

（2万8453円処）を意識した展開となる。上値は25日移動平均線（2万9409円処）が意識されるが、その水準は一目均衡表の雲の上限（2万9402円処）でもあり、転換線（2万9432円処）も位置するところであり、非常に重要なラインである。抜けてくると新値三本足の陽転値（2万9921円09銭）がターゲットとなってくるが、騰落レシオが130・63%と過熱ゾーンに入ってきていることを勘案すると素直に抜けてくるとは考えにくい。

（ハチロク）

星野三太郎の株街往来

～巣籠りから外に出る～

春の選抜

高校野球が開幕した。昨年は春夏とも開催されなかったから、2019年の夏大会以来となる。昨年は新型コロナウイルスの影響でスポーツイベントは相次ぎ中止となり、プロ野球も昨年の開幕当初の無観客からその後は上限を数千規模に抑えて有観客試合を行っていた。今年はいよいよオープン戦で京セラドーム大阪に行く機会があったが、8000程度の動員で、入場時の検温など昨年に比べて格段に感染対策面での手際は良くなっていた。大声を出す観客もいなかったことから、開催する側、見る側ともにこの1年で感染防止への意識は高まっていると思う。

選抜高校野球が無事に開催されれば、その先の関心は延期された東京五輪・パラリンピックの開催と、開催が決定した場合、有観客で行うかの判断になる。開催自体に否定的な意見は多いが、サッカーや野球の国内試合が無事に開催されていることを考慮すれば、動員数を絞ったうえで開催してもいいのではと思う。

コロナ下で学んだことは多い。その経験を生かしたうえで、巣籠りから少しずつ外に出てもいいのではないか？



カプコン

昨年比約2倍に拡大

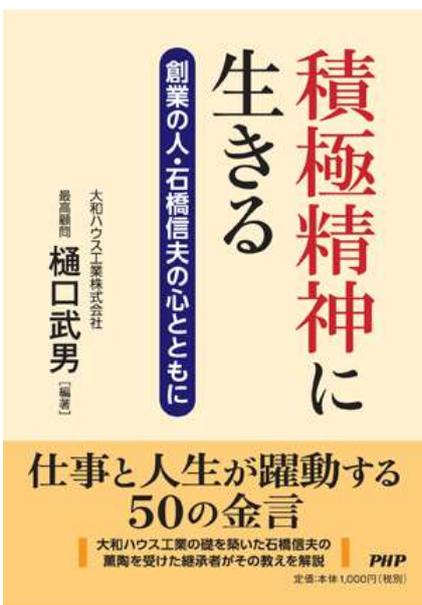
eスポーツツアー世界19地域32大会

カプコン(9697)は人気シリーズ「ストリートファイター」を活用した年間のeスポーツツアー「CAPCOM Online 2021」を開催する。今年、開幕する個人戦「CAPCOM Pro Tour Online 2021」は、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大抑止に向け、選手が自宅から参加するオンライン大会として、4月17日から2022年1月23日にかけて、世界19地域32大会で実施される。今回は新たに南アフリカ共和国で開催が決定するなど、開催地域や大会数が昨年比約2倍に拡大したことにより、さらに多くの選手ファンが参加できる。

「積極精神に生きる」

大和ハウス工業

樋口武男氏編著、PHPから出版



企業レター

大和ハウス工業(1925)の最高顧問(前代表取締役会長) 樋口武男氏が編著した書籍「積極精神に生きる」創業の人・石橋信夫の心とともに

（価格…1100円・税込）がPHP研究所から出版された。同書は、同社の創業者 石橋信夫の生誕100周年を記念して、創業者が遺した50の言葉を厳選し、書籍化したもの。創業者から薫陶を受けた樋口氏が、自身の解釈を加え、現代的な表現で書き示している。普遍性と不変性のある言葉がまとめられているため、経営者やビジネスパーソンにとって、人財育成や自己啓発などに役立つ内容となっている。

樋口武男氏が編著

